



会長統投ご挨拶

長崎県技術士会会長 犬束 洋志

長期に亘ったことや多少高齢にもなったこともあって後進に道を譲りたいと役員の皆様にお計りしましたが、統投以外に道なしとのことで総会においても承認いただきお受けしたしだいです。初心に帰り皆様と活動して参りますのでよろしくをお願いいたします。

再出発のために、九州支部の副支部長に大橋さんが就任したことで、会計を引き受けていただく方を決めたこと、各地域でお世話いただく方をきめたこと、など各役員の方の担当を明確にして活動していただくことを決めていただきました。

我々の母体である日本技術士会も会員の確保を一つの目標としていることから、本部、支部そして我々の会の位置づけを明確にし、一丸となって活動してゆくことが必要と思うのです。そのためにも本部に対して各県の技術士会の認知を明確にしてもらいたいと思います。

さて、我々は技術者集団です。そのためには各自の研鑽はもちろんのことその存在を認めていただく必要があります。先ず個人の能力を高めるには、多くの体験が必要であること、最近では画面上の知識ばかりで現場経験が乏しく感じます。次には議論できる仲間との交流が大切だと思います。そのためには自分の時間配分をうまく出来るかが問われます。そのための場を提供するのがこの会の目的なのかもしれません。

次には、我々を利用していただく側の論理なのですが、私ども会の会員を尊重していただきたい。そのために技術センターの活用が必要なのです。

今これを作成している時、TVの画面は伊豆の道路陥没を報じています。現場研修の良き題材です。許されるなら現場を視察したいものです。個人では出来なくとも技術者集団としては可能なのです。

最後に、最近の技術の安売りは眼を覆いたくなります。我々の技術はそんなに安っぽいものなのでしょうか。拒否する力量が問われます。経営者としては別の認識が必要なことも承知の上ですが、技術をないがしろにした結果は必ず事故や欠損としてわが身に帰ってきます。

種々記載しましたが、私たちは地域の皆さんに何をして差し上げることが出来るかを常に考え行動する必要があります。毎年繰り返される災害に対しても基本は何かをもっと研究することが必要です。即効薬としての効果が無いとこの種の予算を削るおろかな行為が見え隠れすることに

その他・報告事項として、

九州支部関係では19年度より「九州技術士センター」が廃止され支部へ一体化されました。

旧センター会員の皆様等には、日本技術士会や支部の協賛会員への入会していただきますようお願いいたします。

2：研修会

総会后、下記の研修会を開催しました。有意義な研修会となりました。

○「我が国に於けるPFIの動向等」

(株)長大 宮崎 圭生氏(総監、水道・下水道部門)

民間主導の公共事業であるPFIについて、其の手法、導入のメリット、事業に当っての原則・主義、などについての話や発案事例などを発表していただき、今後の事業展開が考えられるPFIに対する良い勉強が出来ました。

○「船の事故と規制と設計について」

(株)大島造船所 森 茂博氏

世界的な船の事故とこれに伴う船の構造設計の規制などについて、具体的に話していただき世界基準である建造船について良い勉強が出来ました。

尚、次回は島原地区で計画しますので多くの会員の参加を御願ひ致します。

3：交流会

研修会の後、交流・懇親会を開催しました。33名の参加で非常に和やかな会となり懇親を深めることが出来ました。次回の懇親会には、多くの会員の参加をお願いします。

三菱技術士会の開催について

松尾 稔(電気・電子部門)

昨年、三菱技術士会というのを発足させ活動を始めましたといえれば格好いいのですが、稲佐の三菱記念会館で不定期に集まって酒を飲みながら雑談をしている程度ですが、毎回興味のある情報が得られます。

会員は三菱重工業長崎造船所に関連した職場を経験した方であれば現役、OBにかかわらず参加できるといういい加減なものです。会則は無く、適当に集まってわいわいがやがや雑談しながらそれとなく懇談をしております。

前回は清水先生が趣味で自家用に作っている日

警鐘を鳴らして就任のご挨拶とします。

平成19年度通常総会・研修会報告

事務局 大橋 義美

総会及び研修会は、予定のどおり7月11日32名の出席で開催しました。

各議案は審議の上、原案のとおり承認されました。

本年度は承認された事業計画により実施して行きます。会員各位のご協力を宜しくお願いいたします。

1：総会の議題等は下記のとおりです。

1) 開会のことば

2) 会長挨拶

3) 議長選出

4) 議事

第1号議案：平成18年度事業報告

第2号議案：平成18年度収支報告及び監査報告

第3号議案：平成19年度事業計画（案）

第4号議案：平成19年度予算（案）

第5号議案：役員改選

報告事項

・九州支部総会、役員会報告など

5) 閉会

新役員について

役員改選の結果、下記の役員が選出されました。

○長崎県技術士会（役員名と担当）

会長 犬束 洋志

副会長 山口 和登（会長補佐・総務・会計）

（諫早・大村担当）

理事 松永 光司（災害・技術支援）

小松 和彦（CPD）

西村 博崇（IT）

桐原 敏（佐世保地区）

吉田 強（島原地区）

大橋 義美（長崎地区）

監事 本田 圭助

川村 昭宣

○九州支部

地区代表幹事 大橋 義美（九州支部副会長）

幹事 山口 和登

広報委員 桐原 敏

IT委員 大橋 義美

18年度まで、副会長や支部幹事を努めていただきました。平原宏志氏にはこの度勤務先が佐賀の方へ転勤となりました。永い間活躍いただいた

本酒の造り方の話を聞き、味見もさせてもらいました。

芳醇なお酒で、すごくおいしくいただきました。また、酒だけ飲んでいるのももったいないと思い、私が体験した光ファイバーケーブルの応用例に付き、お酒がまずくならない程度の簡単な内容で紹介しました。光ファイバーケーブルは情報通信用に開発されたものですが、私は送電線ケーブルの故障点評定システムとして応用したものです。数十キロメートルのケーブルの任意の位置の温度を一本の光ファイバーケーブルで計測するもので、故障点を1メートルの誤差で評定できるものです。

この他にもアメリカズカップに出場した日本のヨットに取り付けて船体の応力を計測したり、髪の毛ほどの太さの光ファイバー10本で小錦関を吊り上げることが出来るという信じがたいことまで紹介いたしました。

次回からは肩の凝らない専門分野以外の話を入れながら和やかな雰囲気の会にしていきたいものど人集めのアイデアを思案しているところです。

現在20名ほどのメンバーを名簿に記載しておりますが、出席はほぼ10名で少し物足りなく思っております。

事務局だより

1) 会員の執筆は松尾稔氏（電気・電子部門）にお願いしました。三菱技術士会の開催についての話ですが、このような肩の凝らない、費用が高く掛からない交流会が各地域の有志で定期的に開催され大きな輪になって行けばと思います。

2) 事務局（機関紙編集）の交替について

本機関紙は現在まで、大橋義美が編集を担当していましたが、19年度より、新しく桐原敏が担当することになりました。

創刊より4年が経ち、その間、会員の皆様のご協力を得て、無事17号迄発行することが出来ました。感謝申し上げます。

会員皆様への情報提供の一環として編集してきましたが、十分な紙面ではなかったかと思いますが、今後はより充実した情報紙として編集して行きたいと考えていますのでご協力の程宜しく御願ひ致します。

3) 会の活動等に関する提案や自由なご意見等、本機関紙への投稿をお待ちしております。会員皆様の要望、意見、各種情報等も下記までお寄せください。

大栄開発(株) 桐原 敏

〒857-1151

佐世保市日宇町2690

TEL 0956-31-9358

FAX 0956-32-2711

ことに感謝申し上げます。今後のご活躍を祈念いたします。

E-mail : s.kirihara@daieikaiatsu.co.jp